



明治150年 米の流通に関するアーカイブ

公益社団法人米穀安定供給確保支援機構

カテゴリー

生産

- 【資料名】 刺割型回転碎土機(車馬鋤)
【年代・来歴】
【寸法】 横幅 100cm 奥行 87cm 高さ 73cm
【保存状態】 概ね良好

【画像】



【略説明】

重粘な乾田の湛水前の碎土作業に用いる。回転軸に溶接固定された先端鋭利なS字型歯杵が土塊に刺さり、捻りながら碎土し、乾燥した土塊で効果が高い。歯杵の後方に普通馬鋤の直歯杵が取り付けられているので、刺し割る作用と押し碎き作用の相加作用となる。日本では普通馬鋤とともに古くから用いられてきた。

【注記】

東京農工大学農学部は、明治期初期から昭和30年代までの間に使われたさまざまな形式の畜力農機具100点あまりを収蔵しており、その資料群は産業考古学会選定「日本の産業遺産300選」に選定されている。

なお上記の略説明については、東京農工大学名誉教授 下田博之博士の著書「図説 畜力農機具発達史(1995年6月)」を基にしている。

- 【所蔵機関】 東京農工大学農学部
【住所】 東京都府中市幸町3-5-8
【連絡先電話番号】 042-367-5654(農学部総務室)
【所蔵URL】 <http://www.tuat.ac.jp/>
【閲覧】 要相談

【このページの問い合わせ先:公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 03(4334)2161】